

第4回札幌市就学援助審議会 議事概要

1 日時

平成29年 7 月25日（火） 18時から20時

2 場所

札幌市教育委員会 4階 委員会会議室

3 出席者

（審議会委員）

秋山敏晴、五十鈴理佳、熊谷由紀、関あゆみ、土田修、西村宣彦、濱田繁光、古家誠士、若松尚代

（事務局）

引地学校教育部長、仙波教育推進課長、穴田学事係長、赤倉係員、岡本係員、藤田係員

4 議題

- (1) 平成30年度以降の認定基準額について
- (2) 特別限度額のあり方について
- (3) 支給費目の追加について
- (4) 新入学児童生徒学用品費の入学前支給について

5 議事要旨

(1) 事務局より第3回審議会の内容について補足説明を行った。

(2) 発言等の概要は以下のとおり。

（平成30年度以降の認定基準額について）

・生活保護基準額が引下げとなる前の平成25年4月の基準を用いる案が一番シンプルであり、受給者の減につながらないのでよい。

・生活保護基準額の引下げ相当額を上乗せするが、前年の生活保護基準額に連動させる案では、今後の生活保護基準額の動向が読めない中、生活保護基準額が下がる場合にはそれに伴い就学援助の認定基準額も下がるリスクがある。受給者に不利益にならないことを目指すのであれば、当面の間、平成25年4月の基準を用いる案がよい。

・生活保護基準額が大きく切り下げられる場合には再度見直しを行うべき。

・もらえる人を増やすか、もらえるものを増やすのか、難しい議論だが、追加したい費目がいくつか挙げられている現状の中では、認定基準額は現状維持

とし、支給費目を追加するのが良いのではないか。

（特別限度額のあり方について）

- ・持ち家世帯が経済的に有利か否かについてはどちらともいえない。制度の簡素化の観点からも廃止してよいのではないか。
- ・持ち家があっても維持費等の費用がかかる他、近年は資産価値も下がってきており廃止してもよいのではないか。

（支給費目の追加について）

- ・生徒会費の実費、クラブ活動費（部活動振興会費）の実費、PTA 会費の実費を追加するのが望ましい。
- ・費目の中では生徒会費を最も優先して追加すべき。
- ・クラブ活動費（部活動振興会費）と PTA 会費については、どちらをより優先すべきであると優先順位をつけるのは難しい。
- ・学校教育の中で PTA の果たす役割は大きい。PTA 会費を小中学生全員に実費支給するにはかなりの費用を要するため、全額支給するのは難しいかもしれないが、半額支給など一部でも支給できるよう検討してほしい。

（その他）

- ・児童扶養手当の要件を一部見直すことにより、財源を生み出す方向で調整すべき。
- ・札幌市以外の政令市や多くの道内他都市では世帯の収入算定の際に年金を含めている。世帯間の水平的公平性を考慮し、年金の収入算定について検討する必要がある。あまり合理的ではないものについては改善しつつ、必要なものにお金をかけるという方が良いのではないか。
- ・現状は年金を収入算定した場合の影響がどの程度になるか不明とのことであった。まずは影響等について調査する必要がある、今すぐ年金収入を審査対象としてみるべきとの判断はつかないが、今後の検討課題とする姿勢は大切。

（新入学学用品費の入学前支給について）

- ・小学校の入学前支給についても、既に実施している他都市の状況も参考にし、札幌市に適した内容になるよう今後も検討を続けてほしい。

（今後の審議会開催について）

- ・検討課題が残っているので、今後は定期的に審議会を開催した方がよい。
- ・生活保護制度や子どもの貧困対策を見直す年度に合わせて開催してはどうか。